

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベーストセオリー		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ベーストセオリー		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	長年にわたり演奏活動を行い、在学中より各種コンテストにおいて評価を受ける。以降、映像作品やゲーム関連音楽をはじめとする多様な分野において、ライブ・ツアー・レコーディングなどの現場に参加し、幅広い実務経験を積んでいる。					
授業概要						
・ベースに必要な機材を学ぶ。 ・楽譜について学び、音楽家に必要な知識を学ぶ。						
到達目標						
・ベース本体の特徴や代表的なエフェクター、アンプ仕組みを理解し、自分のプレイスタイルに合ったベースを選べるようにする。 ・ベースに関係する職業を知り、必要な知識を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	イクイップメントⅠ ・ベースの歴史・ベースの種類・ベースの調整法					
【前期】 5～8回目	イクイップメントⅡ ・ケーブルの種類・アンプの使い方、種類					
【前期】 9～12回目	イクイップメントⅢ ・エフェクター(ダイナミクス)・エフェクター(歪み)・エフェクター(空間系)					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	イクイップメントⅣ ・前期内容を組み合わせた音作り・「前期試験」					
【後期】 17～20回目	音楽の仕事について ・実演家・講師					
【後期】 21～24回目	音楽の仕事について ・作編曲・その他					
【後期】 25～29回目	楽譜の読み書きⅠ ・スコア、パート譜・聴音					
【後期】 30～34回目 (後期試験)	楽譜の読み書きⅡ ・リードシート・聴音・後期試験対策＆後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースフィジカルトレーニング		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ベースフィジカルトレーニング	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	メジャーリリースや海外ツアーの実績を持つバンド活動を軸に、ライブサポートやレコーディングで実務経験を蓄積。 教則講師や機材メーカーのモニターも務め、実践力と応用力の指導を行う。					
授業概要						
楽器演奏において必要なフォーム、奏法、持久力を鍛える。 理論に基づいて様々な楽曲に対応できるように演奏力を養う。						
到達目標						
・長時間の演奏を可能にするフォームの習得 ・様々な調号とコードに対しての知識の習得						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	リズムトレーニング ・クリックを使ったトレーニング ・2finger、ピック弾き、Slapのフォーム確認					
【前期】 5～8回目	クロマティックトレーニング ・左手のフォームづくり ・右手の持久力アップ					
【前期】 9～12回目	インターバルトレーニング ・Cメジャー・スケールを使用したスケール練習 ・インターバルを確認しながら2度から10度までのトレーニング					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	サークルオブフィフスを使ったアルペジオ ・メジャーコードアルペジオ ・マイナーコードアルペジオ					
【後期】 17～20回目	様々なポジションでのスケール ・ペンタトニックスケール ・メジャースケール、マイナースケール					
【後期】 21～24回目	ミュートトレーニング ・音価、休符の感覚の獲得					
【後期】 25～29回目	コード展開アルペジオ ・1st Inversion、2nd Inversion、3rd Inversionでのアルペジオ					
【後期】 30～34回目 (後期試験)	ディグリーアルペジオ ・様々なキーでのアルペジオトレーニング					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	音楽理論Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。				
授業概要					
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、 楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。					
到達目標					
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)				
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-V-VⅥ-VⅦ・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)				
【前期】 11～14回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-V-VⅥ-VⅦ・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)				
【前期】 15～17回目	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、				
【後期】 18～23回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2) Secondary Dominantを使ってみる				
【後期】 24～27回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)				
【後期】 28～33回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティをあげるような学習。				
【後期】 34～35回目	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースベーシックⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースベーシックⅠ		年次	1年次
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	演奏分野において受賞歴を持ち、卒業後はレコーディングやライブサポートを中心に活動を開始。 現在は多様なアーティストや各種音楽制作案件に参画し、演奏・制作の両面で実務経験を有する。				
授業概要					
ベーシストとしての基礎を固めるために、右手左手のフォーム、運指練習、音符(休符)の長さ、 ミュート、様々なジャンルに対するベースラインの構築などベーシストとして活動する上で必要な基礎知識の習得。					
到達目標					
基礎実技、知識の習得。 ・初見で譜面を見て、書かれている音符を正確なリズムや音程で弾ける。 ・多様な奏法に対応できる能力(オクターブ、タッチミュート、レイキング等) ・様々なジャンルの音楽に対してのベースライン構築の理解と研究					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	基本的なフォーム、リズムパターン、基礎運指練習 ・ベース本体、右手左手の基本フォーム ・様々な音符や休符の長さの理解 ・多様な楽曲に対応するための基礎運指練習				
【前期】 5～8回目	様々なベースライン① ・全～8分音符(休符)まで十付点、タイ、スタッカートが使用されているフレーズ、ブルース進行の譜読みと演奏。				
【前期】 9～12回目	様々なベースライン② ・16分音符(休符)、シンコペーション、オクターブ、シャッフルの譜読みと演奏。 ・ハンマリングやタッチミュートのトレーニング				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	様々なベースライン③ ・4ビートでの4分音符ランニングベース ・3連符ベースラインフレーズ				
【後期】 17～21回目	様々なベースライン④ ・ピッキングミュート、ゴーストノートを使用したフレーズの演奏 ・レゲエフィールのベースライン				
【後期】 22～25回目	様々なベースライン⑤ ・小節をまたぐシンコペーションや3拍フレーズでのシンコペーションのフレーズ演奏 ・16ビート1発モノのランニングベースの演奏				
【後期】 26～30回目	様々なベースライン⑥ ・3連符4つ割りフレーズの演奏 ・16分弦跳びアルペジオの3つ割りフレーズの演奏				
【後期】 31～35回目 (後期試験)	様々なベースライン⑦ ・多様な拍子(3/4,6/8,5/4,8/7)のフレーズを演奏				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	アンサンブルⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	講義		必修
	学則上表記	DAW I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行う。					
授業概要						
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～27回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 28～32回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 33～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースストパフォーマンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースストパフォーマンスⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	専門教育機関での履修修了後、自身のバンド運営および演奏活動を基盤に、ライブを中心としたアーティストサポート業務に従事。俳優・声優など異分野の表現者に対するベースレッスンやパフォーマンス指導を行い、演奏技術と表現力の双方を体系的に指導する教育実績を有する。				
授業概要					
発表会に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。					
到達目標					
校内のみにならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギタリストとしてのポテンシャルの向上を図る。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性・過去に行われた授業内発表会にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)				
【前期】 5～8回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・発表会曲に必要なメジャー・マイナースケールを全ポジションで理解しつつ指板把握とリズム精度を高め、フレーズを分解して練習しながらルート中心にコード対応とダイアトニック外コード対策まで行う。				
【前期】 9～12回目	授業内発表会の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・エフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う・演奏楽曲に使われるメジャー＆マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復)・自身のパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等				
【後期】 17～21回目	自身で選んだ楽曲の分析、そこから見える自己プロデュース ・授業内発表会に向けての自身の楽曲のポイント部分、コード進行とソロ、衣装やステージパフォーマンスの確認、ブラッシュアップ。・講師から学生へのイベント前最後アドバイス等				
【後期】 22～25回目	イベントの反省/過去のヒットソングを分析 ・発表会の反省会や今後への課題、見直し				
【後期】 26～30回目	ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。				
【後期】 31～35回目 (後期試験)	授業内にて実践発表と2年生の発表会(+コンテスト)への対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コード譜基礎		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	コード譜基礎	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	メジャーリリースや海外ツアーの実績を持つバンド活動を軸に、ライブサポートやレコーディングで実務経験を蓄積。 教則講師や機材メーカーのモニターも務め、実践力と応用力の指導を行う。					
授業概要						
プロの現場で良く使われる『コード譜』(マスター譜)の読み方の基礎を学び、そして実践を交えての譜面に慣れる授業。						
到達目標						
コード譜に対しての苦手意識を無くす。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「譜面の基礎」 ・ト音記号、ヘ音記号 ・拍子の種類 ・音価の基礎 ・コード譜の書き方の基礎 ・4分音符、8分音符のリズム譜読み ・4分音符、8分音符のリズム譜書き					
【前期】 5～8回目	「リズム譜読みと演奏」 ・1～2小節の4分音符、8分音符のリズム譜を初見で演奏をする ・1～2小節の8分音符、16分音符のリズム譜を初見で演奏をする					
【前期】 9～12回目	「リズムの聴き取り、採譜」(リズムディクテーション) ・1～2小節の4分音符、8分音符のリズムを聴いて譜面に書いてみる ・1～2小節の8分音符、16分音符のリズムを聴いて譜面に書いてみる					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	「3連、シャッフルについて & 譜面の記号についての基礎」 ・3連、シャッフル、ハネ感についての聴き取り、採譜、演奏 ・“D.S”、“coda”などの記号についての基礎					
【後期】 17～21回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ①」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・The Beatles ・Ben E King ・oasis・Cyndi Lauper					
【後期】 22～25回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ②」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・Norah Jones ・Carpenters ・Cream・Earth,Wind & Fire					
【後期】 26～30回目	「名曲の譜面を実際にアンサンブルをして学ぶ③」 ・世界的名曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐに演奏してみる ・Maroon5 ・Alicia keys ・Bob Marley・Stevie Wonder					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	「セッション定番曲を実際にセッションをして学ぶ」 ・セッション定番曲の譜面を見ながら2～3回聴いただけですぐにセッションしてみる ・Bossa Nova ・Funk ・Jazz・Soul					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースアーティキュレーション		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースアーティキュレーション	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	複数楽器の演奏に対応し、国内外でのライブや大型フェス出演など豊富な実績を有する。 加えて、長期にわたりミュージカル作品に出演し、舞台音楽に関する専門性と実践力を備える。				
授業概要					
他授業で学んだ基本的な奏法等を実際の演奏の中でどのように使用するか、また、効果的なニュアンスを出す方法論を学ぶ。 様々なリズムパターン、ビート、フレーズにおいて、それぞれに対して効果的なベースラインを構築する為の分析。					
到達目標					
出したいサウンドやフレーズを正確に演奏出来るスキルを磨く ・奏法技術の向上と応用 ・様々なジャンルで演奏されるフレーズの特徴の分析 ・どういった演奏方法をとれば出したいサウンドになるかの研究					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	サウンドコントロール ・音量コントロール(ピアノニッシモからフォルティッシモ) ・音色コントロール(ピッキングポイントやタッチコントロール)				
【前期】 5～8回目	左手のテクニックの応用 ・ハンマリング & プリング ・スライド、グリス ・ウィブラート				
【前期】 9～12回目	右手のテクニックの応用 ・指弾き ・ピック ・スラップ 上記3つを使用したフレージング				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	様々なビートに対してのアプローチ ・8beat ・16beat ・3連系				
【後期】 17～21回目	フレージング ・ゴーストノートの使い方 ・和音フレーズ ・ミュートの使い方				
【後期】 22～25回目	ジャンルの違いによるフレーズの特徴 ① ・ロック ・ファンク				
【後期】 26～30回目	ジャンルの違いによるフレーズの特徴 ② ・アフリカン ・ラテン ・レゲエ				
【後期】 31～35回目 (後期試験)	他の楽器のニュアンスのつけ方を学ぶ ・ギター ・管楽器 ・歌				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	31回(62単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～13回目	音楽業界基礎知識					
【後期】 14～16回目	音、電気、マイクスピーカーについて					
【後期】 17～29回目	音楽業界基礎知識					
【後期】 30～31回目	所得税と源泉徴収・確定申告					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						